

子どもの権利で未来の新聞をつくりました

子どもの権利条約が国連で採択されて30年。日本も批准しており、自治体でも「子どもの権利に関する条例」が策定されています。この条例の中で定められるのが「子ども会議」です。幸田町での今年子ども会議は、子どもの権利が広まっていると、どんな自治体になるのかについて子ども会議で「未来の新聞」にしました。

☆作るステップは

この会議では、中学生12人と高校生4人で進めます。高校生がファシリテーターになって、中学生の意見をまとめてくれました。

1日目。子どもの権利条例の内容を知る（レクチャーと対話）。記事を考える。途中でメンバーチェンジをして、多様な意見に触れる。

2日目。書いてみたい記事ごとに分かれ、作成する。

途中で、他のグループの記事を共有し、記事の作り方、内容を共有する。このようなステップで進めました。

☆内容は

20年後、この条例にある子どもの権利が広く知られていると、子どもたちはどんな生活をしているのだろうか？そして、幸田町はどんなまちになっているのか？について考え、「未来の新聞」をつくりました。

記事は4つ。子ども自身が校則をつくる。差別やいじめがない。お互いを認め合う（多様な文化）。子どもが自分で決める。テーマは似ていますが、内容は異なり、どれも興味深い記事となりました。

☆異世代、他校の子どもと話すこと

高校生と中学生という世代が異なる子どもたちが話し合うと、自然と高校生がリーダーシップをとってくれます。中学生の意見を引き出し、自分の意見ももちろん言いつつ、まとめていってくれます。

中学生は、高校生、他の中学の子どもたちと交流しながら、意見も言い、下調べもちゃんとして、新聞の記事を創ってくれました。

そして、子どもの権利のこと、まちの未来をじっくりと考えてくれました。

☆今までの枠をはずすと生きやすい社会になると思ったようです。そして、子どもの権利が広まり、実践されていくことが、まちの未来を明るくすると口々に言ってくれました。

